

# 令和6年度社会福祉施設 感染症対策研修会

「標準予防策について」  
～知っているからしているへ～



令和6年10月22日(火)

JCHO南海医療センター

感染管理認定看護師 中野智美

# 研修の目的・目標

---

## 目的

社会福祉施設等において必要な感染対策の知識を習得し日常業務で実践できる

## 目標

標準予防策が理解できる

正しい手指衛生のタイミングが理解でき実施できる

経路別予防策が理解でき実施できる

# 本日の研修内容

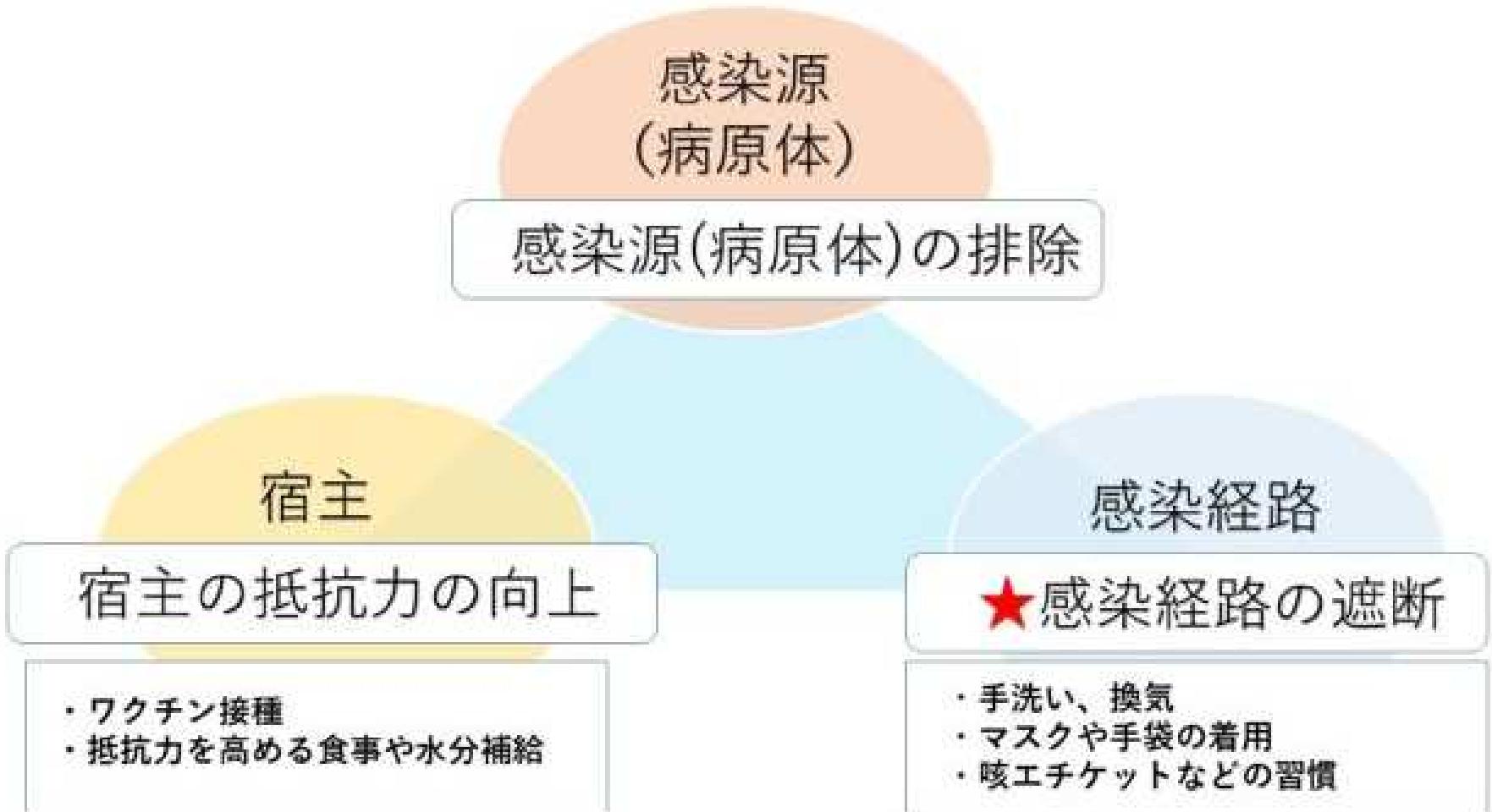
---

- ①感染症の基本的知識について
- ②適切な手指衛生について
- ③演習：手指衛生の実践

# ①感染症の基本的知識について

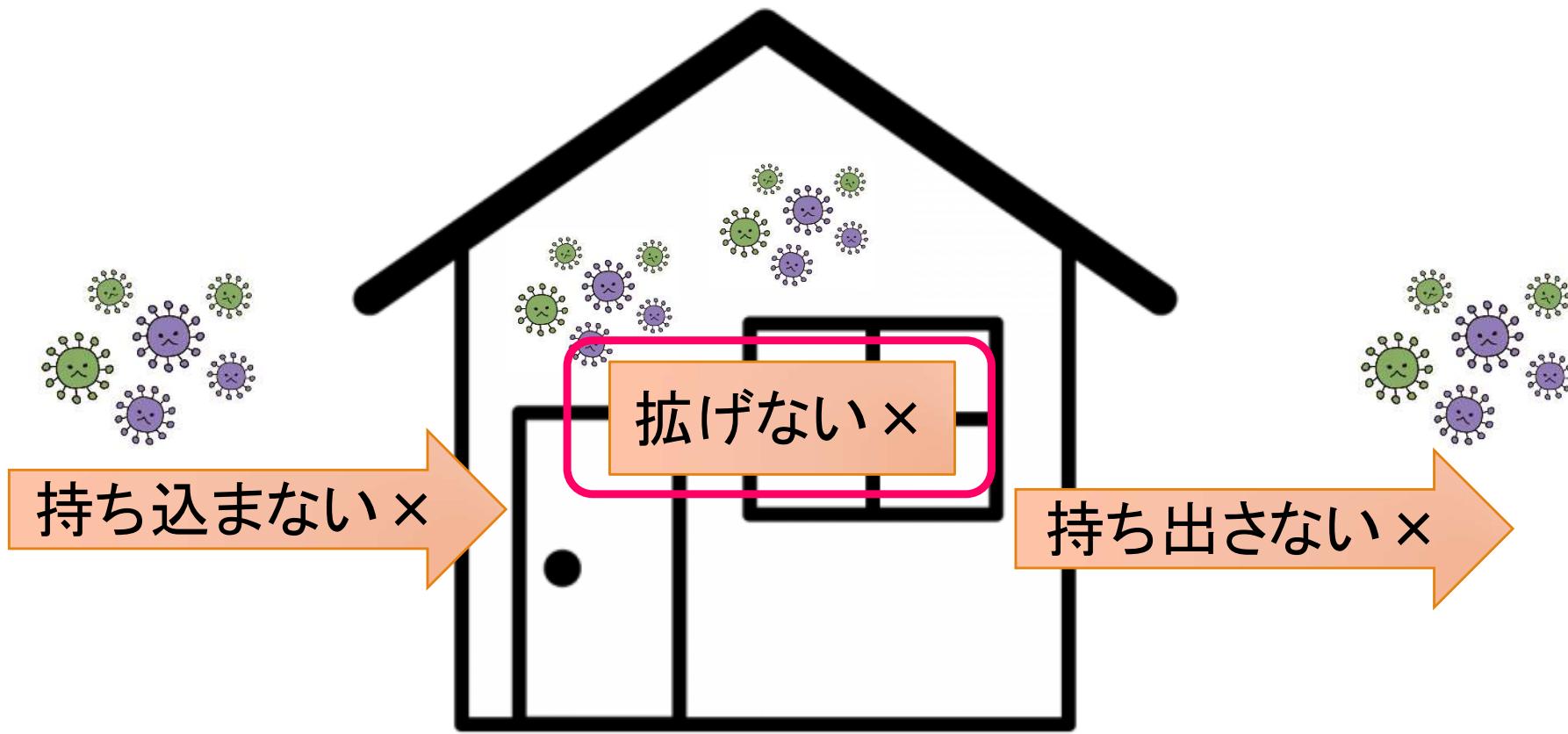
---

# 感染の3要素



# 感染対策の原則

---



# 標準予防策とは…

---

- ◆ 医療・ケアを提供するすべての場所で適用される感染予防策で、**感染症の有無に関わらず**、あらゆる利用者・患者に対して普遍的に適用される予防策。
- ◆ 「汗を除くすべての血液、体液、分泌物、損傷のある皮膚・粘膜は感染性病原体を含む可能性がある」という原則に基づき、手指衛生や個人防護具(マスクやガウン他)の着用など感染リスクを減少させる予防策を示している。

# 感染症の有無にかかわらず すべての患者に適応されます

明らかに感染症と診断  
された症例



病原体が隠れている

未検査か、あるいは  
未知の病原体の  
潜伏期間

診断されていない症例

- ・未検査・偽陰性
- ・ウィンドウピリオド
- ・未知の感染症

# 標準予防策の項目

① 手指衛生



② 個人防護具(PPE)



③ 呼吸器衛生 /  
咳エチケット



④ 患者の配置



⑤ 患者ケアに  
使用した器具



⑥ 環境の維持・管理



⑦ リネン類の  
取り扱い



⑧ 安全な注射手技



⑨ 腰椎穿刺時の  
感染予防策



⑩ 血液感染性病原体への曝露から医療従事者を保護する

# 手洗い・手指消毒はどうして 大切なのでしょう？

---

手はいろいろな所に直接触れます。

介護や保育の時も必ず対象者やその周囲に触れます。

もちろん自分のことでも触ります。

その手が汚染されていないことが、利用者や自分を守ることにつながります。

# 手指には様々な細菌などの微生物が付着しています

手指衛生前の細菌付着状態



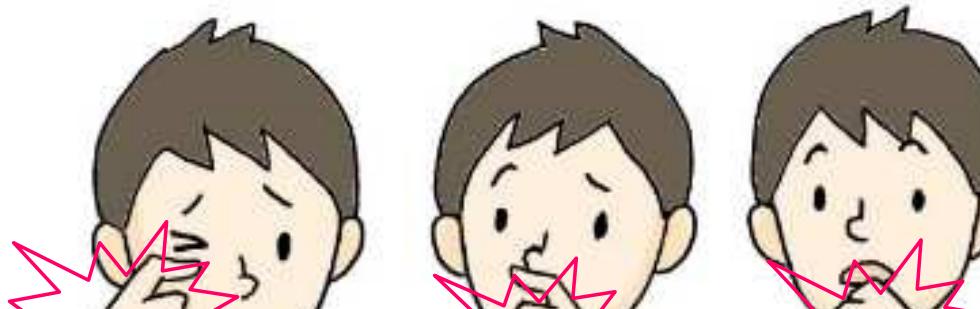
手の形に  
細菌が増殖



(株)日研生物医学研究所 月間HACCP 2008年10月号  
<http://www.nikken-bio.co.jp/news2/images/up/59964006411cc.pdf>

# 手にウイルスや細菌がついていたとしたら？

- ・目をこする
- ・鼻をこする
- ・口を触る



手を介してウ  
イルス・細菌  
が侵入

感染経路を断ち切るには手指衛生の徹底が  
最も有効です



## ②適切な手指衛生について

---

# 手指衛生

---

手指に関する衛生管理を「手指衛生」という。

## 【手指衛生の種類】

1. 流水と石けんによる手洗い
2. 擦式アルコール製剤を用いた手指消毒

# 手指衛生の目的

手に付着した病原微生物を除去(数を減らす)し、感染リスクを減少させるために行います。

手指衛生には、**日常手洗い**、**衛生的手洗い**、**手術時の手指消毒**の3つがあります。



# 日常的手洗いが必要な場面

---

出勤した時 退勤する時

食事をとる前後

トイレの後

見た目に手が汚れている時

掃除の後

パソコン操作後や喫煙の後、鼻をかんだ後



# 衛生的手洗い(手指衛生)が必要な場面

---

入所者さんに接する前と後

入所者さんのオムツ交換、排泄介助などの後

食事介助の前

手袋を外した後



# 手指衛生の使い分け

---



目に見える汚れがない場合は、  
擦式アルコール製剤で手指消毒する



目に見える汚れがある場合は、  
水とハンドソープで手洗いをする

アルコール消毒が効きにくいもの

ノロウイルス

CDI(クロストリジウムディフィシル)

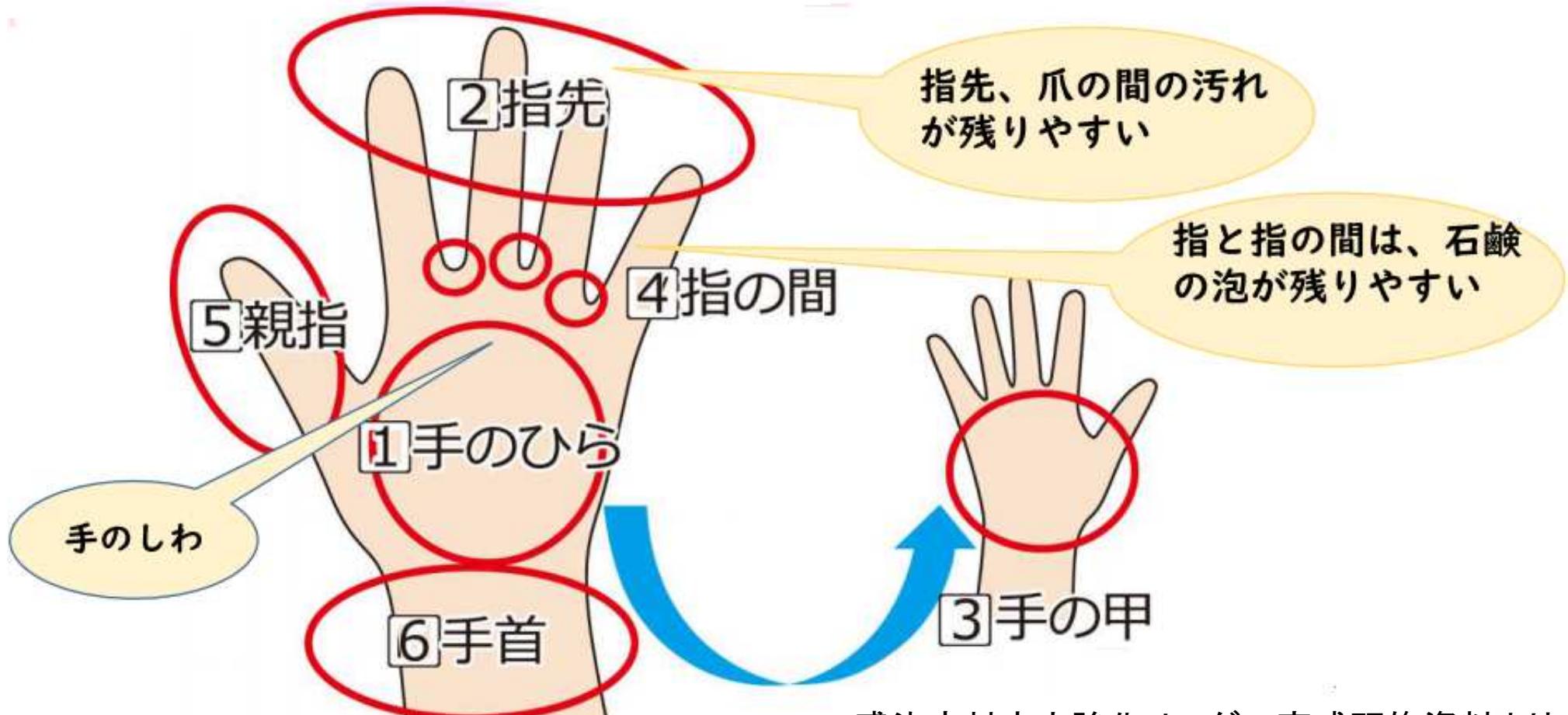


嘔吐や下痢症状がある人の対応後は、

**水道水+ハンドソープの手洗い**

念入りに30秒以上かけて洗いましょう

# 手指衛生を行う際に意識する部位



R6感染症対応力強化リーダー育成研修資料より

洗い残ししやすい部位、刷り込み残ししやすい部位を意識しましょう

## 手指衛生 5つのタイミング



# 「5つのタイミング」はこんな時です

## ①患者への接触前

- 1  
・握手の前  
・移動などの介助の前  
・入浴や清拭の前

## ②清潔操作の前

- ・口腔ケアの前  
・食事準備の前



## ③血液・体液に曝露された おそれがあるとき

- 3  
・口腔ケアの後  
・痰や唾液を拭き取った後  
・尿、糞便、嘔吐物の処理をした後  
(ナプキン、尿漏れパッド)  
・汚染箇所の掃除をした後  
(トイレ、医療機器)

## ④患者への接触後

- 4  
・握手の後  
・移動などの介助の後  
・入浴や清拭の後

## ⑤患者周囲環境への接触後

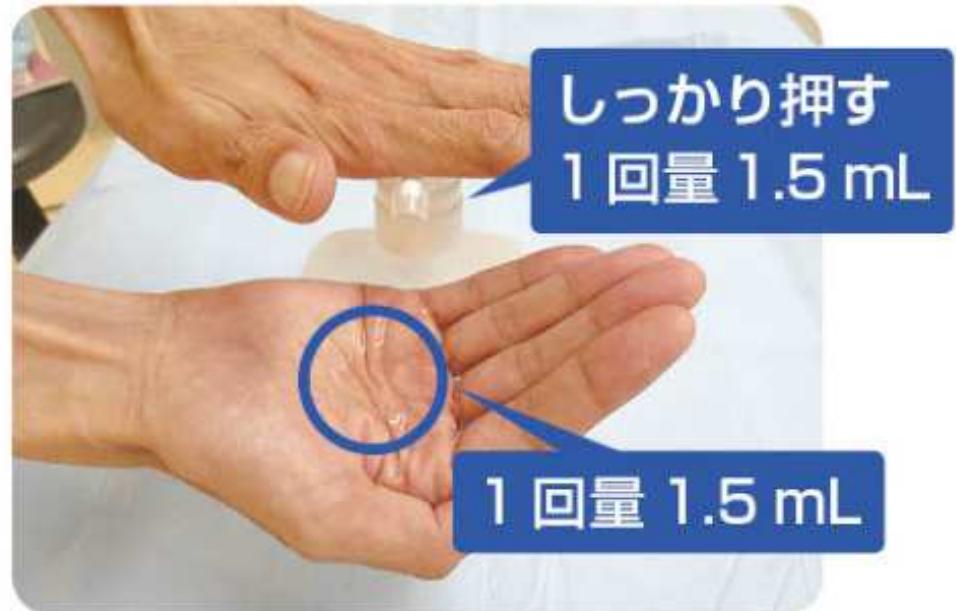
- 5  
・ベッドリネンの交換の後  
・ナースコールや離床センサー  
を確認した後  
・ベッド柵をつかんだ後  
・テーブルを掃除した後  
・カーテンを閉めた後

# 適正な量も重要



設置型

携帯型



1回量 1.5 mL

採用している手指消毒剤の1回使用量を  
確認して適正な量での手指消毒を行う

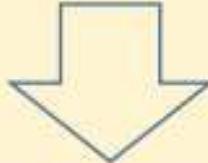
# 介護現場での手指衛生(例)

適応場面

接触前  
清潔前

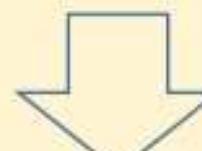
体液曝  
露後と  
接触後

居室入室時 ○手指衛生



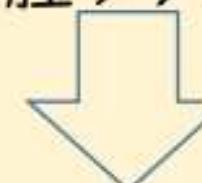
服薬介助

布団を整える  
入所者さんを座  
らせた後  
○手指衛生



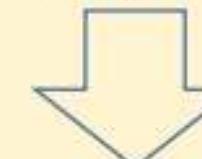
手袋着用

口腔ケアなどの介助



手袋外して○手指衛生

ケア用品類片付け後



○手指衛生

退室時



# 介護現場での手指衛生(例)

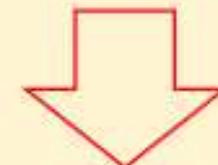
適応場面

接触前

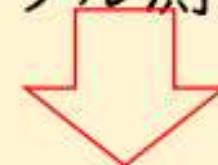
接触後

体液曝露後  
(排泄介助  
後)と接触  
後

居室入室時 ○手指衛生



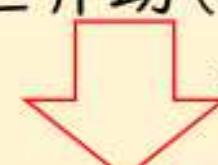
バイタル測定



利用者の移乗



排泄介助(おむつ交換)



手袋・エプロン着用

手袋・エプロン除去直後

○手指衛生

退室時

(○ 手指衛生)



# 擦式アルコール製剤の使用手順

1プッシュ～2プッシュ(手が大きい人)  
乾燥までに20秒～15秒かかる量が適量



すり残しがないようにまんべんなく拡げ、十分に乾くまで、手のしわの中まで  
いきわたるようによく擦り込む

# 手洗い手順



水でしっかり濡らす。



石けんを手に取る。



手のひらをこすり合わせる。



手の甲をこすり合わせる(両手)。



指の間に指を入れてこすり合わせる。



指先と指先をこすり合わせる。



親指の付け根を回転させながらこする。



最後は爪の先をこする。



しっかり洗い流す。



ペーパータオルでしっかり拭いて、きれいな手となる。



# 感染を伝播させないためには

「適切なタイミングでの手指衛生」

「適切な方法での手指衛生」



## ③演習：手指衛生の実践

---

# 演習内容

---

1. 手指衛生動画の視聴
2. 手洗いの検証（代表者4名選出）

★アルコール製剤を使用した手指消毒

★ハンドソープと流水を使った手洗い

# 手洗いの検証

## 洗い残しや刷り込み残しをみてみよう

●蛍光塗料とブラックライトを用いて洗い残しを検証

不適切な手洗いの後



適切な手洗いの後

